



とみた てつじ  
富田 哲二 監督

1954年8月7日生まれ。読売クラブ、ドイツアマチュアクラブでプレー。ケルンスポーツ大卒。JFA ナショナルトレセンコーチ、ジェフユナイテッド千葉 U-18 監督、U-15 監督を経て2008年からアイデンティみらい監督就任。JFA 公認 S 級ライセンス取得。

## 監督インタビュー

— 新型コロナウイルスの影響もあり、例年とは違うところで難しい面もあったと思いますが、今季のチームづくりについてお聞かせください。

富田監督 前期リーグが中止ということで、冬から春にかけて準備してきたものが2、3カ月空いてしまいました。選手たちのフィジカル面は問題ないと思っています。今季は先発メンバーを昨季から半分入れ替えました。若い選手も入ってきましたし、彼らをいかにチームに根付かせていくかがポイントですね。結果を出し続けていくためには時間も必要ですから、試合を重ねながら、戦術を浸透させて、選手同士のコミュニケーションを深めていければと思います。

— 監督が選手に求めるものはどんなところでしょうか。

富田監督 今の自分の限界までのチャレンジをすることです。ベストを尽くしたうえで失敗するのは構わない。最後の1センチまで、相手にボールを渡さないことにこだわってほしい。いつも伝えていきます。

— ありがとうございます。今季はここまで1分1敗（8月14日時点）ですが、今後の意気込みをお聞かせください。

富田監督 今季はリーグのルール上、降格することがないので、関東リーグ1部昇格を目指し、思い切って試合に臨みます。今は無観客ですが、観客を入れられるようになったときにはぜひ、市民の皆さんにも試合を観に来ていただければ嬉しいです。

# サッカーを通じた地域コミュニティづくりへ向けたさまざまな活動



(左から) 笠見さん、赤城さん、松井さん

## 「日常の気分転換になる」

### 地域のママたちが参加するサッカー教室

サッカーを幅広い皆さんに楽しんでもらおうと、みらい平グラウンドでは毎週月曜日、女性限定のサッカー教室「ママさんクリニック」を実施しています。取材したこの日も、13人の「ママさん」たちが午前10時から正午までの2時間、ミニゲームなどで気持ちよく汗を流していました。

市内から参加していた3人の方に話を聞きました。松井由香里さんは「良いストレス解消になります」と話し、赤城元子さんは「日常生活をリセットして気分転換できます。子育ての情報交換をすることもありますよ」とも。笠見麻衣さんは「チームみんなが運動してゴールを獲れたときが嬉しいですね。運動経験ゼロですが楽しめています」と、皆さんそれぞれ笑顔を見せてくれました。

1回から参加でき、自分の都合に合わせて参加できるのも魅力のよう。気になった方はぜひ、見学してみたいはいかがでしょうか。



子どもたちとサッカーをする本田選手

## 「スポーツの楽しさ伝えたい」

### 児童クラブで子どもたちとサッカーで交流

アイデンティみらいでは、月に5日程度、選手たちが市内小学校の「放課後児童クラブ」を訪れ、子どもたちと身体を動かして遊ぶ活動を行っています。子どもたちにとっては、アスリートと直に<sup>じか</sup>触れ合うことのできる貴重な機会です。

取材したこの日は、アイデンティみらいの本田大雅選手と鈴木和希選手、南将元選手の3人が参加。サッカーや鬼ごっこを子どもたちと一緒に楽しんでいました。

サッカーを担当していた本田選手は「まずは体を動かす楽しさを知ってもらいたい」といいます。「サッカーは1人では限界がある。ドリブルだけじゃなくて、味方にパスを出すことで状況が有利にもなる。遊びを通じてコミュニケーションをとる楽しさを学んでくれたら」と話してくれました。

参加した子どもたちは「鬼ごっこが楽しかった」「疲れたけどサッカーが楽しかった」と笑顔を見せてくれました。